

---

# 私を捕まえてください！

和田喬助

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私を捕まえてください！

### 【Nコード】

N5955Z

### 【作者名】

和田喬助

### 【あらすじ】

「私を捕まえてください！」と男が交番にやってきた。

「おまわりさん、私を捕まえてください！」

ある晴れた日の昼下がりに、五十歳くらいのオールバックの髪をした男が、交番へ入ってくるなりそう言った。

「まあまあ落ち着いて。ゆっくり話さない」

四十二歳の中堅警察官は慣れた様子で、男を奥のソファに座るよう勧める。彼は何度か、出頭してきた犯人を捕まえた経験がある。

「実はですね、私夢を見ました」

「うん、夢くらい誰だって見るよな。いったいどんな夢だったんだい？」

警官は、一応メモを取りながら耳を傾ける。男がごくつとつばを飲み込んだ。

「私、夢の中で人を殺したんです」

男の言葉に、警官はふつと笑う。

「あなたね、夢の中で殺人をしても罪にはならないんだよ。皆が夢の中だけに留めておいてくれたらどれだけ平和になる事か」

「いえ、私は現実でも人を殺しそうなんです」

警官に少し緊張の顔が浮かんだ。

「どういうことだ？ 詳しく聞かせてくれ」

「はい、私は友人から借金をしてしまして……。もう簡単には返せない金額になってしまったんです」

「だから相手を殺してしまうんじゃないかというわけか。でもそれを自分で分かっているんだから大丈夫だろう？」

「でも、テレビでよくあるじゃないですか。ついカツとなって殺してしまっただって。私もいつかそうなってしまうと思います。いえ、絶対なりません。夢はその予言ですよ」

男が頭を抱え込んでうなり始めた。警官が困った顔をする。

「そう言われてもねえ……。まだ何もしていないのに逮捕するわけ

にはいかないよ。そうしたらこっちが捕まりかねない」

なおも話し続けようとする男を止め、警官は名前と住所を聞いた後、男に家に帰るように言った。男は黙って交番を出ていった。

三日後の昼ごろ、五十歳くらいの頭が禿げている男が交番にやってきた。

「おまわりさん、私を逮捕してください！」

警官はいつもしているように、奥へと案内する。

「また出頭か……。ちつとも落ち着いてられないよ」

警官が空気の読めない発言をしたが、男は気にしていないようだ。

「そんなにここへ来る人が多いのですか？」

「はあ、と警官はため息をつく。」

「ああ。三日前にも、夢の中で人を殺して本当に殺人を犯しそうだと行って来た人がいてね」

「私は夢ではありません。現実で人を殺してしまったのです」

男は、はっきりした口調でそう言った。警官は、手の上でクルクル回っていたペンを落つこととしてしまった。

「なんだって？ 詳しく話しなさい」

「はい。実は私、友人に金を貸してしまして。それが結構な金額になっただんです。それで殺したのです」

「そんなことで、なぜあなたが人を殺さなくてはいけないんだ？」

警官は訳が分からず、首をかしげた。

「よくテレビであるじゃないですか、お金の返済に困った人が、相手を殺してしまう事件が。私の場合もそうなるのではないかと思ひました。借金は返ってこなくなりますが、自分の命には代えられないので、やられる前にやってしまったというわけです。でも、殺した後にはだんだん怖くなってきて、逃げるよりもここに来たほうが楽になると思っただのです。だから、私を捕まえてください」

今まで聞いた事のない殺害の動機を聞いた警官は、せきばらいを一つして心を落ち着かせた。

「それで、あなたが殺した人の名前はなんて言うんだ？」

警官がペンとメモ帳をとって尋ねる。男が緊張した声で、ある男性の名前を言った。三日前にこの交番へ訪ねてきた男だった。

翌日禿げ男の部屋から、のどに包丁が突き刺さったままの男の死体が発見された。彼の服はボロボロになっていた。

(後書き)

久しぶりの字数制限のない短編です。ツイッター小説の方もよろしく！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5955z/>

---

私を捕まえてください！

2011年12月19日22時53分発行